

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 田畑 明日香

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。

(1,000字程度)

長い歴史を有し、長年の国際交流によって多彩な文化が花開いた江西省、そしてその中心都市である南昌市への訪問は私の心に残る大きな思い出になりました。中国では日本と同じ漢字が多く使われていたり、お茶碗やお箸を使うなど似ている部分があれば、様々な場所に給水所があり、全ての人が安全な水を確保できるようなシステムになっていたり、一台のバイクに家族四人が乗って移動するなど異なる文化に直面し、それを肌で感じる事が出来ました。また訪問中は、様々な中華料理が登場し、南昌市の名物である南昌拌粉をはじめ、臘肉、厚揚げの煮込み料理、ココナッツジュースなどに舌鼓を打ちました。醤油と様々な香辛料がふんだんに使われた料理は深みのある味で食べると全身から力が漲り、猛暑日も乗り切る事ができました。

陶磁器で有名な景德鎮市では、陶磁器が作られる工程を見学し、実際にろくろを使って陶磁を形成したり、青花と呼ばれる染付を体験しました。陶磁器の中でも比較的シンプルな湯呑みを作りましたが、凹凸のある歪な形になってしまったり、染付で描いた模様の色づきが想像以上に薄かったりと、陶磁器を作る難しさを学び、展示、販売されている多彩な陶磁器は職人の確かな技術によって支えられていることを痛感しました。その後訪れた高嶺・中国村では豊かな自然を満喫しながら、中国古来から栽培されてきた緑茶の一種である毛尖茶の購入をいたしました。試飲したい旨を伝えると、小さく可愛らしい茶器で何種類ものお茶を提供し、丁寧に説明をしてくれました。お互いの言葉が分からず、コミュニケーションを取るの大変でしたが、お店の方々の笑顔が何よりも雄弁に歓迎の意思を語っていました。他の商店や行く先々でも現地の方はどこから来たの？と話しかけてくれたり、私の話す拙い中国語を一生懸命聞き取って手助けをしてくれたりと多くの優しい人々と交流することができ、心の温かさ感激しました。引率やガイドとして同行して下さった方々とも実際の中国での生活や日本との違いなど多くのトピックで意見交換を行い、相互理解を深める事ができました。

江西省、南昌市での一週間は伝統的な食文化や陶磁器の美しさ、そして人々の愛情に触れた濃密でかけがいのない時間でした。今後はこの素晴らしい経験をもとに、中国語や文化を学習して、中国の人々との親交を深めるとともに中日の架け橋となるべく積極的に国際交流に努めたいと思います。

